

■米国：ボーグル 3、4 号増設計画、オーナー企業 4 社が建設続行を再確認

米国の 30 年振りの新規計画として、ジョージア州で進行中の AP1000 設計を採用したボーグル原子力発電所 3、4 号機増設計画に関し、オーナー企業 4 社は 2018 年 9 月 26 日、建設続行の方向で合意した。最大オーナーで大手電力会社サザン社の子会社ジョージア・パワー（GP）社は「オーナー 4 社は、そろって同機建設続行に賛成した」と発表した。これは、ウェスチングハウス社倒産後建設管理を引き継いだサザン・ニュークリア社が本年 8 月に、「工事進捗は順調で運転開始も予定通りであるが、建設コストが増加する見込み」と新たな建設予定額を提示したことで、追加コストの負担を巡ってオーナー企業 4 社で建設続行の意思を再確認する必要が生じたことによる。一時は、4 社の足並みが乱れ、頓挫の危機とも報じられていた。同日付で GP 社が証券取引委員会（SEC）に通知した内容によると、今般提示された新たな建設予算以上に、万が一コストが増えた場合には、追加部分の負担比率と、発電税額控除をオーナー企業間で調整しなおす新たな仕組に契約を改訂することで合意に至った模様である。